

新しい「野洲市民病院」

総合体育館東側市有地での

整備計画が正式決定！

令和8（2026）年度
竣工・開院へ



(※イメージパースです)

現の市立野洲病院の老朽化による新しい「野洲市民病院」の新築移転計画を、野洲市総合体育館横市有地（野洲市富波甲・旧温水プール跡地）で進めることが、先月の市議会定例会で賛成多数で認められました。

これを踏まえて市は、今年の秋をめどに設計・施工一括で発注・契約し、市民の健康と地域医療を支える199床の中核病院を、令和8（2026）年度の後期に開院する計画です。

主な内容

- 新病院の概要
- 施設規模と配置計画
- 施設整備方針と主な部門
- 概算の整備費用
- 正確な情報を知ってください(Q&A)

みなさんの『野洲市民病院』 市内各域からアクセス良好の

「総合体育館東側市有地」

～市民の健康と福祉を増進し、

総合体育館東側市有地での 事業化が正式決定

現の市立野洲病院の老朽化に対応するため、市では新しい病院の整備に向けてこれまで取り組んできました。

今年度に入ってからは、駅前での病院整備を多くの市民が懸念し反対されていることや、大半の患者が車で通院されていることが調査で明らかになったことなどを踏まえ、「市の中央」で市内各地からアクセスが良い「総合体育館東側市有地」（旧温水プール跡地・約7,250㎡）で整備する計画案を新たに作り、市民懇談会などでご説明をしてきました。

そして先日12月22日、次の段階である準備工事の設計や測量などの予算が市議会本会議で可決されたことにより、新しい場所での整備計画の事業化が正式に決定しました。

令和8（2026）年度の開院へ

「一日も早く！」という多くの市民の声に応えるため、新病院は3年先の令和8年中に工事を終え、同年度中に開院する計画です。

また、今年秋ごろには、設計と施工を一括発注する「デザインビルド」という新しい方式で事業者と契約する予定です（下表）。これにより、スケジュールが短縮でき資材調達の円滑化も図

れるうえ、入札が不調となることも避けられます。設計着手の段階から新病院の完成まで、確実に安定して事業を進めることができる見込みです。

新病院の概要

▶めざす病院像（主な役割）

現の市立野洲病院の機能を基本的には継続・継承します。

- 中軽症の急性期患者に対応（2次救急）
- 医療連携により高度急性期病院と在宅医療をつなぐ
- 疾病予防や早期発見、リハビリテーション医療の充実
- 在宅医療の実施と診療所の後方支援
- 災害や感染拡大時に市民の安心を確保

▶診療科の構成計画

内科〔主な診療科：総合内科・消化器内科・循環器内科・脳神経内科等〕

整形外科・外科・婦人科・眼科・泌尿器科・小児科・リハビリテーション科・麻酔科・放射線科・人工透析

※開院時点で想定する主な診療科です。

※医師確保の状況等に応じて、今後も継続的に検討します。

	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度
基本構想・基本計画	→				
要求水準書作成 設計施工者選定		→			
基本設計・実施設計			→ →		
建設工事			→ → → →		
移転・開院					◆

デザインビルド方式により一括発注

で令和8(2026)年度開院へ!

暮らしの安心を守ります～

▶病床規模と構成

- 全体規模：199床〔現病院と同じ〕
- 病床構成：湖南圏域の各病院ごとに医療機能の分担化が促進されていることや、本市においては今後20年は高齢者がさらに増加し、独居や核家族化も進行することなどを考えて、次のように決めました。

病床機能の区分	計画床数	(参考) 現野洲病院
急性期病床	50床	110床
地域包括ケア病床	49床	48床
回復期リハビリテーション病床	50床	41床
維持期病床（医療療養病床または障がい者病床*）	50床	—

※障がい者病床は、加齢に伴う神経系の難病による障がい患者を主に受け入れる病床です。医療療養型病床と障がい者病床のどちらを選択するのかについては、現市立野洲病院で検証を行い、社会的ニーズ等を見極めて判断します。

※基本設計の段階等で、上記を基本としつつ病床機能区分間の増減をさらに検討します。

施設規模と配置計画

▶施設規模と配置計画

- 敷地面積：約14,600㎡ ※下図の赤枠の範囲。病院棟部分は約7,250㎡
- 耐震構造5階建、延床面積：約14,850㎡
- 駐車場：平面400台（平日午前の病院関係想定台数。患者用200台・職員用200台）
+ 体育館利用想定300台。合計700台 ※職員用200台には敷地外区画を含む。



施設整備方針と主な部門

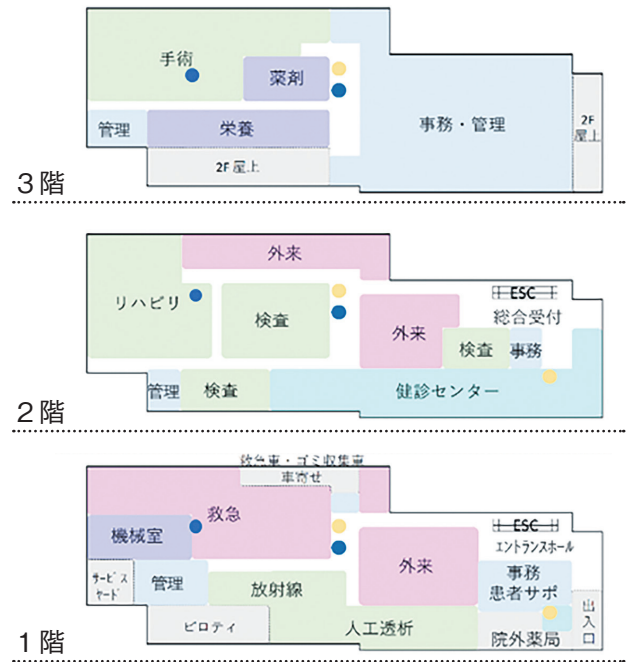
▶整備方針と具体例

- 患者・家族にやさしい病院
 - 入院患者の情報利便性に配慮
 - 患者のプライバシーやセキュリティに配慮
- 隣接施設や地域と調和し環境に配慮した病院
 - 総合体育館等利用者の支障にならない配置と利便に資する施設
 - 周辺地域の景観と調和した外観・外構計画
- 来院しやすい病院
 - 病院周辺の交通安全に配慮した施設計画
 - (仮称)北口シャトルバス、(仮称)病院デマンドワゴンによる通院支援策を検討
 - 家族や施設の送迎車が寄せやすい施設
- 災害に対応した病院
 - 地震発生後も医療活動を継続できる建物
- 感染症拡大時に対応できる病院
 - 動線や空間が分離された感染外来の整備
 - 感染入院患者用の単独動線の確保
- 職員が働きやすい病院
 - 清污の動線分離など安全性に配慮した施設
- 経営効率性に配慮した病院
 - 建物の維持管理などライフサイクルコストの抑制に配慮した建物

▶主な部門 (機能)

健診センター、救急処置室、感染外来、内視鏡室、手術室 (バイオクリーンルーム)、放射線室、透析室、患者サポートカウンター、リハビリテーション室、院外薬局スペース、売店、イーコインコーナー

※下図は配置イメージ。5階、6階は病棟階のため省略



概算の整備費用

世界情勢の不安や円高、コロナ禍の影響で、最近、建設工事費が大きく伸びています。現段階で見込む総事業費は約93.6億円です。このうち約9割を病院事業債という借入金でまかない、

約30年かけて病院と市とが折半して負担していく計画です。

収支計画や財政見通しを行った結果、病院も市も将来負担に十分耐えられる額と見込んでいます。

	概算事業費	財 源		
		企業債	補助金	病院財源
建設工事費	約76.8億円	約76.4億円	約0.4億円	—
設計監理費 (調査業務含む)	約4.2億円	約2.8億円	—	約1.4億円
準備工事費 (設計監理含む)、用地取得費	約0.8億円	約0.1億円	—	約0.7億円
医療機器、什器、情報システム整備費	約7.5億円	約7.5億円	—	—
事務費、移転費等	約4.2億円	—	—	約4.2億円
合 計	約93.6億円	約86.8億円	約0.4億円	約6.3億円

※端数処理の関係で、合計欄の額と各項目の合計額は一致しません。

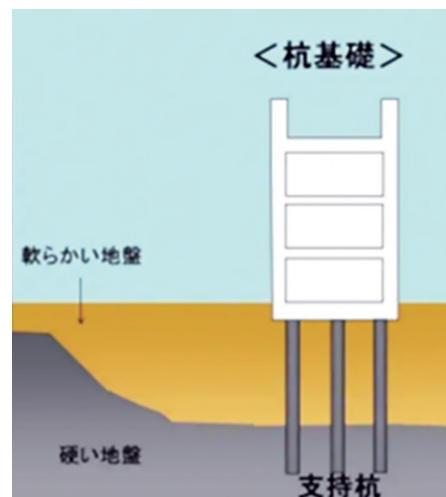
正確な情報を知ってください

Q1 地盤が軟弱だから建物が建たない?? 狭くて建たないと聞いたが…

〔お答え〕 **安定して建てられます。**

一般的に病院などの大きな建物は、地下の硬い地層まで支持杭を打ち込み、その上に基礎を形成します（右図〈杭基礎〉）。今度の計画地は、過去の地質調査の結果から、地下の比較的浅いところ（10m付近）に「されき層」という硬い地盤が一定の厚みで広がっていることが判明しています。したがって、通常のコスト・期間・工法により、丈夫な病院を安定して建てることできると考えています。

また、病院棟が建つ部分の土地の形状は長方形ですが巾は約50mあります。面積は約7,250㎡で、駅前ロータリー真横のAブロック約5,400㎡を上回る十分な広さです。



Q2 高圧送電線で電磁波が危険だと聞いたが…

〔お答え〕 **心配がいないレベルです。**

電磁界による人体影響については、世界保健機構WHOの定めるガイドラインが国際基準で、制限値は「 $200\mu\text{T}$ （マイクロテスラ）」とされています。市では、公的機関から借り受けた計測機を用い、総合体育館屋上の送電線間付近で計測を行いました。その結果「 $0.6\mu\text{T}$ 」で制限値の333分の1でした。

なお、電磁波は身近な家電製品からも出ており、経済産業省の資料によると、掃除機 $3.2\mu\text{T}$ 、ヘアドライヤー $1.6\mu\text{T}$ 、電気毛布 $3.2\mu\text{T}$ などです。

- ・測定日時：令和4年10月14日(金) 14時頃
- ・測定場所：野洲市総合体育館東寄り屋上付近



Q3 駅前での計画より多額の費用が掛かると聞いたが…

〔お答え〕 **むしろ安価です。**

総事業費は駅前計画よりむしろ安価です。また、基礎工事に多額が掛かるのでは？という懸念についてもQ1のとおり考えられませんし、鉄塔も移設する必要なく建てられます。そのほか民間薬局は敷地内に開設が可能で、看護師などの職員寮も付近の市街地に民間が整備したものを借り上げるため今までと同じです。確かにコンパクトシティ推進のための国庫補助金10.5億円を差し引くとB

ブロックで造るより2%弱高くなりますが、市の財政や病院の運営に影響する額ではありません。

なお、廃案とした駅前Aブロックでの計画ですが、昨今の建築費用高騰の前であったにもかかわらず、総事業費は約120億円の計画でした。その後入札不落となりましたが、その際の応札額は10億円以上上回っていたので、実際は130億円以上で、今回計画の約93億円の1.5倍近い計画でした。

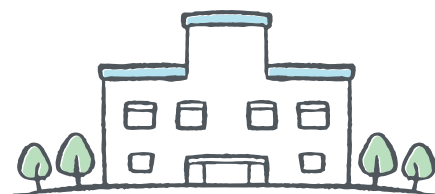
	R4 体育館東側 (今回)	駅前での計画	
		R2 Aブロック (修正設計時)	R3 Bブロック (条件補正後)
総事業費	約93.6億円	約119.9億円	約102.2億円
建設工事費（ピロティ・駐車場含む）	約76.8億円	約85.0億円	約80.6億円
設計監理費（調査業務委託含む）	約4.2億円	約2.9億円	約4.1億円
準備工事費（同設計監理含む）	約0.7億円	—	—
用地取得費	約0.1億円	約11.3億円	約6.0億円
医療機器、什器、情報システム整備費	約7.5億円	約17.6億円	約7.5億円
事務費、移転費等	約4.2億円	約3.1億円	約4.0億円

Q4 駅から離れると電車や路線バスで通う患者に不便だと聞いたが…

【お答え】 **路線バス・電車で来たと答えた人は5%でした。**

野洲病院の来院者の通院方法を調査しました。その結果、73%が「自動車」（送迎含む）であった一方で、「路線バス・電車」の人は5%でした。病院に限らず、野洲市民の移動手段は自動車を中心です。そのため、市の「中央」で混雑の少ない総合体育館横に場所の合理性があると考えたものです。

なお、駅を利用しておられる市民や病院スタッフの来院・通勤手段として、野洲駅北口からシャトルバスをピストン運転する計画です（片道約6分、平日午前は1時間に3往復程度）。



Q5 国スポ・障スポ大会が終わるまで工事に着工できないと聞いたが…

【お答え】 **先に着工して開催中は工事を止めます。**

令和7年（2025年）開催の国民スポーツ大会・障がい者スポーツ大会は大切な事業です。しかし病院整備も早く進めなくてはならないことから、開催中の一定期間は工事を止めることとし、先に着工します。

なお、完成後における両施設の間隔は20m程度確保されることから、温水プールがあったときと同じ程度で、決して建て混んだ状態にはなりません。

問い合わせ…地域医療政策課 ☎587-8814、FAX586-2200